

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 その他河川 東江の川通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 砂防 構造物基礎

ボーリング名	Bor-4	調査位置	広島県呉市川尻町板体地内			北緯	34° 14' 48.3951"		
発注機関	広島県西部建設事務所呉支所			調査期間	令和5年 7月 12日 ~ 令和5年 7月 13日		東経	132° 40' 44.3882"	
調査業者名	主任技師			現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者			
孔口標高	T. P. 266.40m	角	180° 上下 0°	方位	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平0° 鉛直 90° 24°	使用機種	東邦D0
総削孔長	8.00m	エンジン	ヤンマー-NFD-12			ポンプ	東邦BG-3		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記述	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験						試験採取番号	室内位置試験	削孔月日	
												深度-N値図		N値	100mmの打撃回数	200mmの打撃回数	300mmの打撃回数				50回の貫入量
1	265.45	0.95	隠混じり粘土質砂	粘土質砂	茶褐色	rd1			新生代第四紀	粘土分40%程度混じる細砂主体。約径5~7mmの流紋岩部角礫~岩片混入。全体的に粘着性、根が不規則に混入。		1.15	1	1	2	1	300	1.15	P4-1	⊖	
2	263.95	2.45	隠混じり粘土質砂	粘土質砂	茶褐色	rd1			新生代第四紀	粘土分45%程度混じる細砂主体。粘土分は全体的に均質で、不規則に粘着混入。深度1.55~1.60m間、約径20~30mmの部角礫が混入。		2.15	1	2	3	6	300	2.15	P4-2	⊖	
3	261.95	4.15	隠混じり粘土質砂	粘土質砂	茶褐色	rd3			新生代第四紀	粘土分30%程度混じる細~中砂主体。約径5~50mmの部角礫混入。全体的に細粒分少量混入。全体的に約径5~75mmの流紋岩硬質岩片が不規則に混入。		3.15	6	10	5	21	300	3.15	P4-3	⊖	7/12
4	261.95	4.15	流紋岩	流紋岩	茶灰				中生代後期白亜紀	流紋岩質凝灰岩 (軟岩) DII級。コアは柱状で採取されるが、風化変質が著しく、指土で離れに砕ける。割れ目が発達し、隙間は白色粘土で充填。		4.15	5	4	6	15	300	4.15	P4-4	⊖	7/12
5	260.80	5.60	流紋岩	流紋岩	暗緑灰				中生代後期白亜紀	軟岩 I、CI級。風化を受けていない硬質な岩片~短棒状コア主体。軟質化した部分は礫状コア。傾斜角約40°の割れ目主体で隙間は粘土質砂が充填。		5.15	12	18	20	50	290	5.15	P4-5	⊖	7/13
6	259.50	6.90	流紋岩	流紋岩	暗緑灰				中生代後期白亜紀	軟岩 I、DII級。コアは柱状で採取されるが全体的に風化変質が著しく岩芯まで風化し、径5mm以下の礫~土砂状で採取される。割れ目はやや不明瞭で指土で容易に崩れ、部分的に白色粘土膜が発達する。深度7.50m以下、約径10~20mm程度の礫状コア。		6.02	50	20	50	20	20	6.02	P4-6	⊖	7/13
7	258.40	8.00	流紋岩	流紋岩	暗緑灰				中生代後期白亜紀	軟岩 I、DII級。コアは柱状で採取されるが全体的に風化変質が著しく岩芯まで風化し、径5mm以下の礫~土砂状で採取される。割れ目はやや不明瞭で指土で容易に崩れ、部分的に白色粘土膜が発達する。深度7.50m以下、約径10~20mm程度の礫状コア。		7.10	27	23	60	50	160	7.10	P4-7	⊖	7/13
8	258.40	8.00	流紋岩	流紋岩	暗緑灰				中生代後期白亜紀	軟岩 I、DII級。コアは柱状で採取されるが全体的に風化変質が著しく岩芯まで風化し、径5mm以下の礫~土砂状で採取される。割れ目はやや不明瞭で指土で容易に崩れ、部分的に白色粘土膜が発達する。深度7.50m以下、約径10~20mm程度の礫状コア。		8.09	50	50	50	90	8.09	P4-8	⊖	7/13	